



黄金色の稲穂がコンバインで次々と刈り取られていくさまに、思わず見入ってしまいます



ひら 平 田

空がぐんと高くなり、澄んだスカイブルーにうろこ雲。散歩には最高の季節到来です。

さて、今回の散歩の目的地は平田地区。豊穡の頃にふさわしい、実りある出会いがありました。

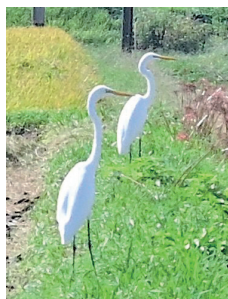
稲穂の波の上を 滑るように走る コンバイン

稲刈りの光景をあちらこちらで見かけるこの頃は、どこからともなく香ばしい匂いが漂い流れます。黄金色に色づいた田んぼで汗を流していた福永貴大さんと、妻の千純さん夫婦に出会いました。

この時期、福永さんたちは稲刈りに大忙し。「わが家の田んぼの他に、請け負って米作りをしている案件もあり、収穫のこの時期は昼食を取りに家に戻る時間もなくて。嫁さんが握ったおにぎりをあぜに座って食べます。これが空の下で食べるとま



「実ほど頭を垂れる稲穂かな」の句が思い浮かびます



上／あぜ道でじーっと刈り取り後のエサを狙っているサギたち
右／そのサギを望遠カメラで狙っている写真愛好家の山来さん



じ、おいしいんですよ」と朗らかに笑う貴大さんです。

近年は米作りもいろいろと事情が変わってきました。高齢化により作り手が少なくなったり、受け継いだ田んぼはあるが農機具を持っていなかったり、などの理由で耕作放棄地も増えていきます。そんな事情をくんだ貴大さんのような若手農家の人たちが、米作りを請け負っています。

福永家は貴大さんの両親と、高1と中3の息子さん、中1の娘さんの育ち盛りとの7人家族。白ご飯とお肉が大好きという子どもたちの食欲も旺盛だとか。千純さんは思い出し笑いしながら、「みんなよく食べるんです。先日、米びつの中があとわずかになってしまっ。すると夫が



作業の手を止め、気さくに話に応じてくれた福永さん夫婦

『米なら売るほどある(笑)。ちょっと待ってて』と言って田んぼに向かい、しばらくして新米を抱えて帰ってきました。『米農家って最高!!』と思わず口に出しました」と話してくれました。ほんと、うらやましい限りです。頭を垂れた稲穂の波の上を滑るよ